



日本クリティカルケア看護学会誌

Journal of Japan Academy of Critical Care Nursing

Vol. 5, No.1
June 2009

第5回日本クリティカルケア看護学会学術集会 プログラム・抄録集

ご挨拶	松月みどり.....	1
学術集会概要		2
学術集会に参加される方へのお知らせ		3
会場周辺図		10
会場案内		11
学術集会スケジュール		12
プログラム		14

学術集会抄録

会長講演		31
特別講演(市民講演)		35
教育講演		39
シンポジウム		47
パネルディスカッション		69
ワークショップ		77
交流セッション		81
一般演題(口演)		85
一般演題(ポスター)		143
第5回日本クリティカルケア看護学会学術集会企画委員・実行委員		169
日本クリティカルケア看護学会会則		171
役員名簿		173
日本クリティカルケア看護学会誌投稿規定		174

第5回 日本クリティカルケア看護学会 学術集会

プログラム・抄録集

メインテーマ

～あなたの知識は臨床実践に生きてますか～

会 長 ◆ 松月みどり

開催日 ◆ 2009年7月11日(土)・12日(日)

会 場 ◆ 神戸国際会議場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1

TEL:078-302-5200 FAX:078-302-6485

学術集会事務局

財団法人田附興風会医学研究所北野病院／看護部内

〒530-8480 大阪市北区扇町2-4-20

TEL:06-6131-2933 FAX:06-6312-1314

E-mail:ccn-kango@kitano-hp.or.jp

ホームページ: <http://jaccn5.umin.jp>

ご 挨拶

財団法人田附興風会医学研究所北野病院

会 長 松月みどり

クリティカルな状況の患者は、病院内のICUやCCU、救命救急の場に多く存在しますが、急性期の病院では入院期間の短縮に伴って、一般病棟にも多く存在するようになりました。今年度から実施されている看護必要度調査では、病棟全体の25%が重症患者である病院も少なくありません。さらに、在宅医療、緩和ケア医療の発展によって、在宅にも人工呼吸器をつけた患者が存在します。本学会はこれらすべての場における医療・看護について幅広く、実践現場における科学的根拠や技術方法論、そして学術的な分野の交流と蓄積を目的に発足し、5年目を迎えます。看護は実践の科学です。論文などの文字で表現している理論やエビデンス、知識、知恵、技術の実態は眠っています。臨床実践に活用して、はじめてその価値が生きてきます。

平成21年の第5回学術集会のメインテーマは『「生命の危機」—あなたの知識は臨床実践に生きてますか』としました。研究成果と臨床実践を結ぶ方法を探りたいと思っています。議論が活発に行われ、みなさまの更なる飛躍の鋭気が養われることを願っております。

学術集会概要

メインテーマ

あなたの知識は臨床実践に生きていますか

会 期

2009年7月11日(土)・12日(日)

会 場

神戸国際会議場

会 長

松月みどり(財団法人田附興風会医学研究所北野病院)

実行委員長

山本佳代子(財団法人田附興風会医学研究所北野病院)

学術集会事務局

財団法人田附興風会医学研究所北野病院／看護部内

〒530-8480 大阪市北区扇町2-4-20

TEL：06-6131-2933 FAX：06-6312-1314

E-mail：ccn-kango@kitano-hp.or.jp

ホームページ：http://jaccn5.umin.jp

入会デスク

東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科

先端侵襲緩和ケア看護学分野内

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

FAX：03-5803-0156

URL：http://jaccn.umin.jp/

学術集会に参加される方へのお知らせ

開催時間

2009年7月11日(土) 8:30(受付開始)～18:00(懇親会18:00～20:00)

7月12日(日) 8:00(受付開始)～15:40

受付について

参加者の受付は、「国際会議場 3階 総合受付」で行います。

1. 事前参加申し込みをされている方(6月19日までに参加費をお振込みの方)

- 受付は不要です。このプログラム・抄録集に同封されている参加証をご持参いただき、総合受付にある紐を通して、首から下げてご入場下さい。
- なお、プログラム・抄録集を受付でお渡しすることはありませんので、忘れずにお持ち下さい。

2. 当日参加申し込みをされる方

- 総合受付内「当日受付」で、参加費をお支払い下さい(学会員は10,000円、非会員は11,000円、看護系大学・短大・専門学校生は3,000円：学生証をご提示下さい)。(注)大学院生は学生外とします。
- 受付で参加証兼領収証、プログラム・抄録集をお受け取り下さい。
- 6月19日以降にお振込みをされた方は、当日受付扱いとなります。振込みをされた際の「ご利用明細票」または「振込金受領証」を忘れずにご持参下さい。

懇親会について

懇親会は、7月11日(土)18:00～20:00 ポートピアホテル 南館地下1階「トパーズ」にて、開催いたします。

参加方法

- 総合受付内「懇親会受付」でお申し込みの上、懇親会会費をお支払い下さい(会員・非会員・学生問わず一律5,000円)その際、参加証に懇親会参加のシールをつけさせていただきますので、会場への入場の際に参加証を必ずご持参下さい。
- 6月19日までに申し込み、振込をされた方には、シールのついた参加証をご送付しています。
- 6月19日以降にお振込みをされた方は、当日受付扱いとなります。振込みをされた際の「ご利用明細票」または「振込金受領証」を必ずご持参下さい。

その他

1. ご来場交通機関について

- 学術集会開催に伴う周辺交通機関の混雑が予想されますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用下さい(会場周辺図参照)。
- 参加者用の専用駐車場はありません。

2. 国際会議場の利用にあたって

- 会場内では携帯電話、PHS等の電源はお切りになるか、マナーモードにしてください。また、会場内の発表、スライド、ポスター等の写真撮影・ビデオによる撮影、録音は著作権の問題が生じることがありますので、ご遠慮いただきますよう御願いたします。
- 指定された場所(ランチョンセミナー会場)以外での飲食はご遠慮下さい
- フロア内は禁煙です。

3. 昼食について

- ランチョンセミナーが両日とも開催されますのでご利用下さい。また、近隣施設には飲食店もございます。
- ランチョンセミナー参加券はいずれも開催当日の9:00から総合受付横で配布いたします。

4. 携帯品のお預かりについて(クローク)

- 手荷物やコート類は4階404会議室にクロークを設置してお預かりします。
- 貴重品、傘はお預かりできません。また、保管中の破損等の責任は当方では負いかねますので予めご了承下さい。
- お預かり時間 7月11日(土) 8:30～19:00
7月12日(日) 8:00～17:00

5. 会場内での呼び出しについて

- 会場内での呼び出し等は一切行っておりません。
- 総合受付に「伝言板」を設置しておりますのでご利用下さい。

6. プログラム・抄録集について

- 2冊目以降は総合受付にて販売いたします(1冊1,000円)

7. 書籍販売および企業展示

- 書籍販売は3階示説会場(レセプションホール)横のロビーで行います。
- 企業展示は3階示説会場(レセプションホール)内で行います

8. 救 護

- ご気分の悪くなった方は、総合受付または各会場スタッフにお申し出ください。

9. スタッフ

- スタッフはスタッフ用名札をつけております。何なりとお尋ねください。

10. ゴミ・不用品

- 各自でお持ち帰りください。

一般演題の発表要項

発表者および座長の方は「3階 総合受付」で受付を済まされ、所定の時間までに各会場へお越し下さい。

□ 演

本学術集会の口演発表は、全てノートパソコン(以下 PC)とプロジェクターによる発表といたします。下記事項にご留意いただき、ご準備をお願いいたします。

1. 発表形式概略

- 各発表者の PC は学術集会事務局(以下事務局)でご用意いたします。
- 発表用データをメディア(USB フラッシュメモリーまたは CD-R)でお持ちいただき、事務局で用意した PC にデータを複写したものを使用して発表していただきます。

2. データの作成・保存

- 事務局で用意する PC の OS は『Microsoft Windows XP』です。アプリケーションソフトは『2000, 2002, 2003, 2007』を用意しています。PC 受付時必ず動作確認を行ってください。
- Macintosh の場合は本体持ち込みのみの対応です(OS10 以上)
- ファイル作成に当たっては Windows 標準フォント(MS 明朝、MSP 明朝、MS ゴシック、MSP ゴシックなど)をご使用下さい。
- スライド枚数の制限はありませんが、発表時間内に終了するようにしてください。
- 作成されたファイル名は『演題番号・発表者名(カタカナ)』で保存してください。
例：『01-8・コウベハナコ』
- アニメーション、音声および動画の使用はできません。発表データは、持ち込まれたファイル単体で動くようにしてください。

3. メディアの持込

- 受付可能なメディアは USB フラッシュメモリーまたは CD-R のみです。念のために各自バックアップをして頂き、お持ちいただく事をお勧めいたします。

4. 演題および PC 受付

- 受付場所：国際会議場 3階 総合受付(演者・座長受付および PC 受付)
- 受付時間：発表開始60分前までに受付を終了してください(それ以降は運営上の都合により受付できないことがあります)
- 2日目(7月12日)に発表の方はできるだけ前日に PC 受付を済まされるようお願いいたします。
- PC 受付にご持参いただいたメディアは動作確認終了後、その場でご返却いたします。
- PC に保存したデータは学術集会終了後に事務局が責任を持って消去いたします。
- 事前参加登録がお済でない方は当日参加受付をされてから PC 受付へおいで下さい。

5. 発表

- 発表者は各発表群開始 15 分前までに各会場にお集まりいただき、発表 10 分前には次演者席にお着きください。
- 口演は 1 演題 10 分（発表 7 分、質疑応答 3 分）です。
- 上映は発表者による手元操作になります。
- 手元の時計がカウントダウンします。
- OHP 及びスライドの使用、会場での資料配布はできません。
- 演者の欠席が生じた場合は、繰り上げて発表していただきます。予めご承知下さい。

座長の方へ

1. 受付

- 受付場所：国際会議場 3 階 総合受付（演者・座長受付）
- 受付時間：担当群発表開始時間の 60 分前までに受付をして下さい。
- 各会場へは発表開始時間の 15 分前までにおいでいただき、10 分前には次座長席にお着きください。

2. 進行について

- 担当群の発表前に、ご自身の所属氏名をご紹介下さい。
- 発表者の氏名の読み方は、直接発表者にご確認下さい。
- 各演題発表前に、演題名、所属施設名、発表者名をご案内ください。
- 演者の欠席が生じた場合は、繰り上げて進行してください。
- 口演は 1 演題 10 分（発表 7 分、質疑応答 3 分）です。設定された担当群の時間内に全ての口演が終了するように進行してください。
- 質問者には、はじめに所属施設名と氏名を述べてもらうように指示してください。
- 活発な討論ができるようにご配慮下さい。

示 説

1. ポスター作成要項

- 1 演題あたり、縦 210cm × 横 90cm のパネルを準備します。タイトル、発表者等を含め、この範囲内に収まるようにご準備ください。演題番号は事務局で準備します。下から 40cm は見にくいいため、使用しない事をおすすめします。

2. 演題受付

- 受付場所：3 階示説会場（レセプションホール）
- 受付時間：7 月 11 日 ㊦ 8：30～9：30

3. ポスターの掲示

- 演題受付を終了後、3階示説会場へポスターを掲示してください。
- ポスターを貼る時間帯は、7月11日(土) 9:00～9:30です。
- パネルに貼るための押しピンは会場内に準備しております。

4. ポスターの撤去

- 7月12日(日)の15:00～15:30の間にポスターを撤去してください。
- 撤去時間を過ぎても取り外されない場合は、事務局で処分いたします。

5. 質疑応答

- 座長は設けておりません。発表者は、質疑時間内はできるだけ発表ポスター前に待機するようにして下さい。
- 実施時間：7月11日(土) 13:30～14:30
7月12日(日) 11:30～12:30



講演・シンポジウム・パネルディスカッション・交流集会の 演者および司会・座長の方へ

1. 受付

- 受付場所：3階総合受付（講師・来賓受付）
- 受付時間：担当されるプログラム開始60分前までに受付にお越し下さい。

2. 事前うちあわせ

- 打ち合わせ場所：3階に控室をご用意しております。
- プログラム開始10分前になりましたら、会場までご案内いたします。

3. 進行について

- 各プログラムがそれぞれ予定時間内に終了するようにお願いいたします。

総 会

日 時：7月11日(土) 13:00～13:50

会 場：第1会場(1階メインホール)

評議員会

日 時：7月10日(金) 17:00～18:00

会 場：4階 403会議室

プラクティスセミナー

1. セミナーの事前参加申込みをされている方

当日開始30分前より、5階501会議室横受付にて、確認メールと参加証を引換えいたします。
学会参加登録証もご提示いただきますので、忘れずにご持参ください。

2. セミナーの事前申込をされていない方はオーディエンスとして自由に見学していただけます。

- セッションⅠ [複数のチューブが挿入されている患者の体位変換]
- パフォーマー 大阪警察病院・大阪府済生会千里病院・淀川キリスト教病院
- 開催日時・会場 7月11日(土) 13:30～16:30 5階501会議室

- セッションⅡ [挿管中患者の口腔ケア]
- パフォーマー 大阪厚生年金病院・神戸市立医療センター中央市民病院・半田市立半田病院
- 開催日時・会場 7月12日(日) 8:30～11:30 5階501会議室

ランチョンセミナー

会期中に、ランチョンセミナーが開催されます。整理券はいずれも開催当日の9:00から総合受付横で配布いたします。ふるってご参加下さい。

7月11日(土) 12:00～13:00開催

第1会場(1階メインホール) 先着500名

共催：株式会社メディコン

I 菌の伝播防止に着目した下痢患者のケア –C.difficile の問題点–

Barbara A. McLean 先生 Nurse Intensivist & Critical Care Specialist

第2会場(3階301国際会議場) 先着300名

共催：タイコヘルスケアジャパン株式会社

II 人工呼吸器関連肺炎の予防～呼吸ケアチームを中心とした当院での取り組み

宇都宮明美 先生 兵庫医科大学病院 ICU 師長 急性・重症患者看護専門看護師

第3会場(4階401/402会議室) 先着200名

共催：株式会社 大塚製薬工場

III 変わりゆく新型インフルエンザ対策

森兼 啓太 先生 国立感染症研究所 感染症情報センター 主任研究員

7月12日(日) 12:30～13:30開催

第2会場(3階301国際会議場) 先着300名

共催：株式会社 ホギメディカル

IV 手術室から変わる ～中規模公立病院における手術室業務改善～

中村 正人 先生 市立貝塚病院 副院長

第3会場(4階401/402会議室) 先着200名

共催：スリーエムヘルスケア株式会社

V 保湿からはじまる口腔ケアの実際

菅 武雄 先生 鶴見大学歯学部 高齢者歯科学講座

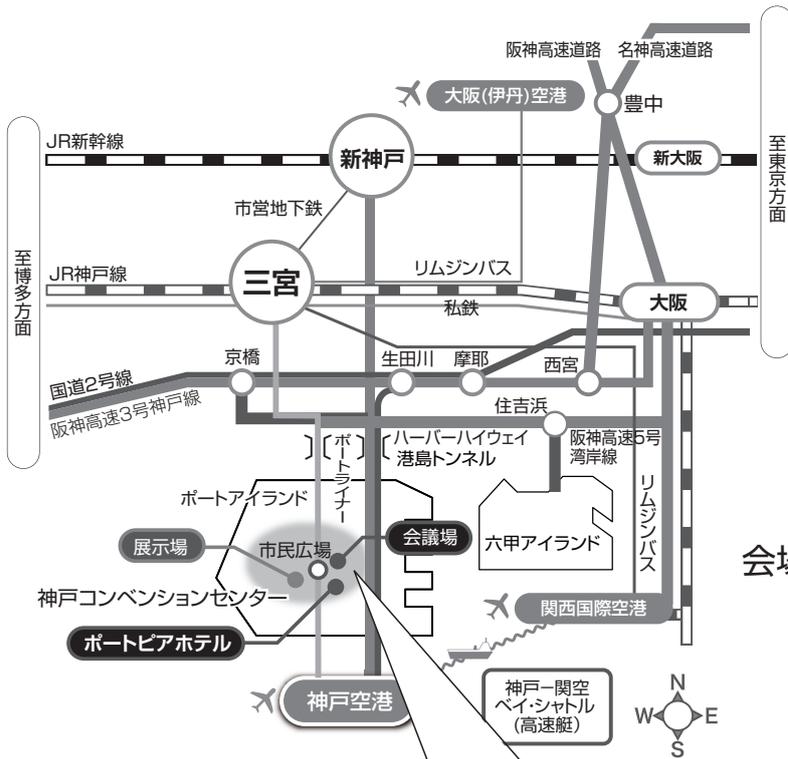
第5会場(5階501会議室) 先着200名

共催：パラマウントベッド株式会社

VI 急性期リハビリテーションの実践へ向けて

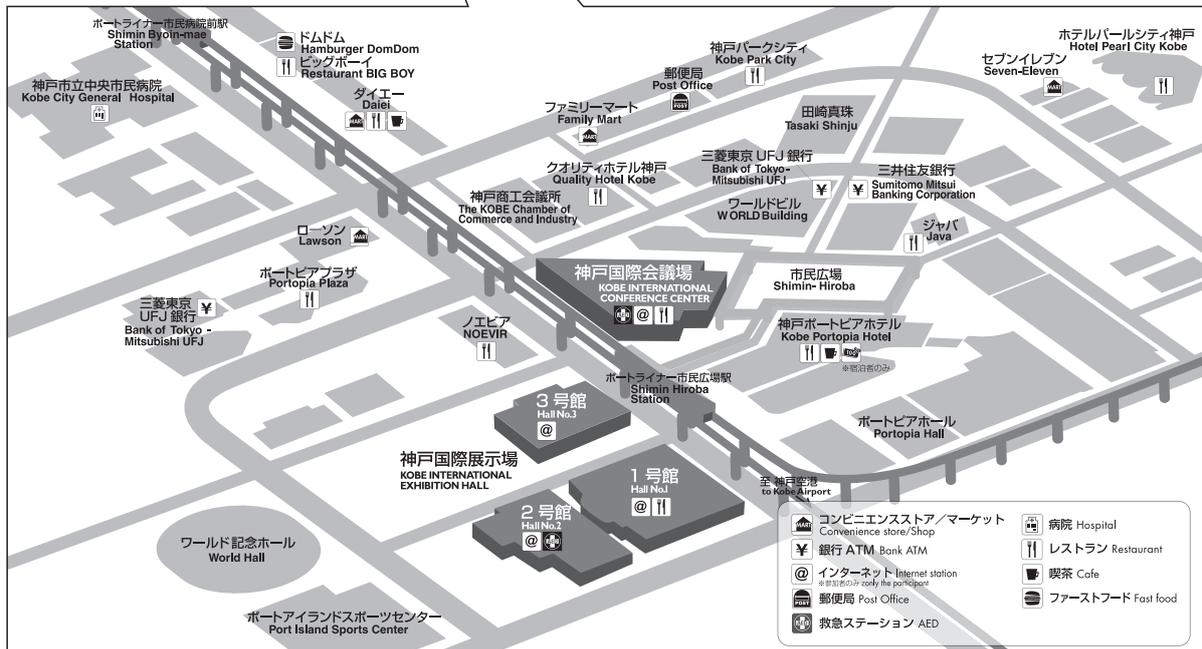
小松 由佳 先生 東京慈恵会医科大学付属病院 集中ケア認定看護師

会場周辺図

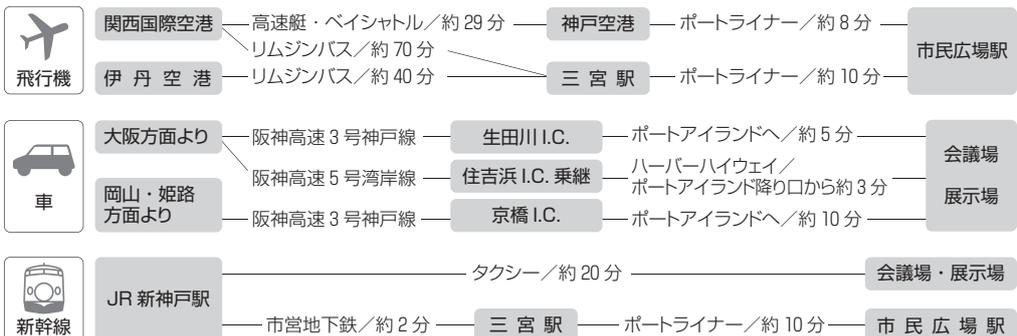


会場：神戸国際会議場

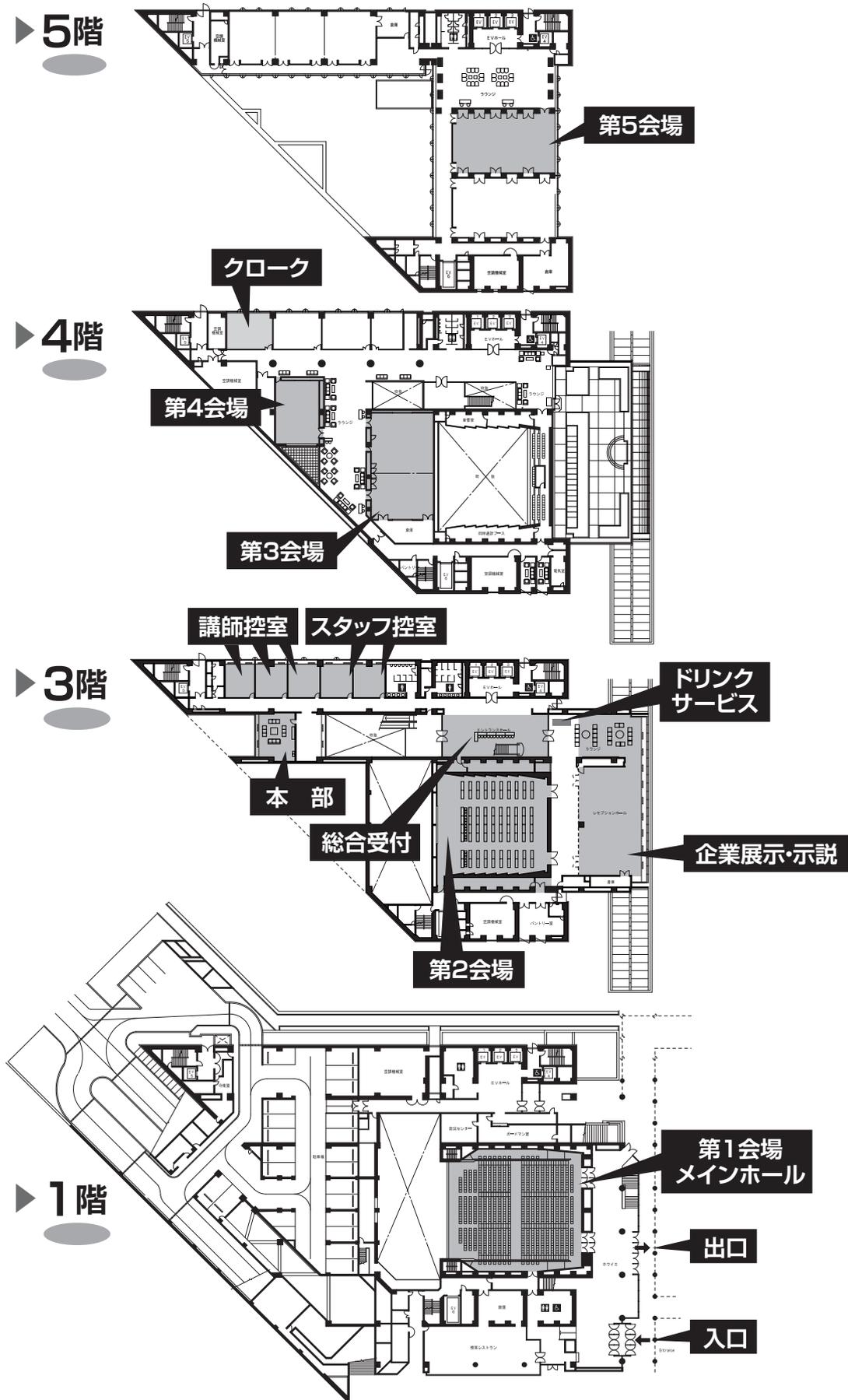
〒650-0046
 神戸市中央区港島中町 6-9-1
 TEL 078-302-5200
 FAX 078-302-6485



アクセス



会場案内



学術集会スケジュール

1日目 平成21年7月11日 土

	1F	3F	4F	5F
	第1会場	第2会場	第3会場	第5会場
	メインホール	301国際会議室	401/402会議室	501会議室
9:00	9:00~9:10 開会挨拶 9:10~10:00 会長講演 会長：松月みどり 座長：中村 恵子		9:00~9:30 ポスター 貼り出し 9:30~13:30	
10:00	10:00~12:00 特別講演 (市民講演) 【人生90年】 【長寿日本】 演者：安藤 忠雄 (建築家) 座長：松月みどり			10:00~10:50 一般演題:第1群 患者管理 座長：與良登美代
11:00				10:50~11:40 一般演題:第2群 周手術期看護 座長：石井はるみ
12:00	12:00~13:00 ランチョンセミナーⅠ 【菌の伝播防止に着目した下痢患者 のケア-C.difficileの問題点-】 演者：Barbara A. McLean 座長：加藤 はる 共催：株式会社メディアコン	12:00~13:00 ランチョンセミナーⅡ 【人工呼吸器関連肺炎の予防~呼吸 ケアチームを中心とした当院での取り組み】 演者：宇都宮明美 座長：道又 元裕 共催：タイコヘルスケアジャパン株式会社	12:00~13:00 ランチョンセミナーⅢ 【変わりゆく新型 インフルエンザ対策】 演者：森兼 啓太 座長：妙中 直之 共催：株式会社大塚製薬工場	
13:00	13:00~13:50 総会 ※学会員の方は ご参加ください			
14:00	13:50~15:50 シンポジウムⅠ 【知識をクリティカル ケア看護実践に 活かすには】 シンポジスト： 宇都宮明美 大江 理英 角口亜希子 富岡小百合 山岡 綾子 座長：北村 愛子	13:50~15:50 教育講演Ⅰ 【家族看護ケア】 講師：渡辺 裕子 座長：中村 恵子	13:30~14:30 質疑応答 14:00~16:30 ワークショップ 【ナラティブ・アプローチ による臨床看護 実践の新しい地平】 話題提供：大野由美子 紙野 雪香 指定討論：野村 晴夫 平河 勝美 座 長：福田 敦子	13:30~14:10 一般演題:第3群 呼吸ケア① 座長：菅原 美樹 14:10~14:50 一般演題:第4群 呼吸ケア② 座長：矢富有見子 14:50~15:30 一般演題:第5群 救急看護① 座長：田口智恵美 15:30~16:10 一般演題:第6群 救急看護② 座長：宮崎 奈々 16:10~17:40 交流セッション 【裁量権拡大を視野に入れ たクリティカルケア看護 実践の方向性の検討】 井上智子 佐々木吉子 川本祐子 矢富有見子 山崎智子 内堀 真弓 座長：森田 孝子
15:00				13:30~16:30 プラクティス セミナーⅠ 【複数のチューブが 挿入されている 患者の体位変換】 パフォーマー： 大阪警察病院 大阪府済生会千里病院 淀川キリスト教病院 座長：安部 斉子
16:00	15:50~17:40 教育講演Ⅱ 【クリティカルケアと 音楽運動療法】 講師：野田 燎 ピアニスト： 山本 京子 座長：明神 哲也	15:50~17:40 パネルディスカッション 【クリティカルケア看護 各領域に共通する 専門性について】 パネリスト： 亀井 有子 芝田 里花 清水 称喜 相澤 裕 猿田 美雪 座長：山勢 博彰		
17:00				
18:00				

■懇親会 ポートピアホテル南館地下1階「トパーズ」 18:00~

プログラム

1日目 7月11日(土)

会長講演 9:10～10:00

第1会場

座長：札幌市立大学 看護学部 中村 恵子

[日本のクリティカルケア看護学の未来 臨床家からの提言]

松月みどり 財団法人田附興風会医学研究所北野病院

特別講演(市民講演) 10:00～12:00

第1会場

座長：財団法人田附興風会医学研究所北野病院 松月みどり

[人生90年 長寿日本]

建築家 安藤 忠雄 東京大学特別栄誉教授

シンポジウムⅠ 13:50～15:50

第1会場

座長：りんくう総合医療センター市立泉佐野病院 北村 愛子

[知識をクリティカルケア看護実践に活かすには]

SI-1 知識をクリティカルケア看護実践に活かすには

宇都宮明美 兵庫医科大学病院

SI-2 クリティカルケア看護師の知識獲得過程のあり方
急性・重症患者看護専門看護師の活動から

大江 理英 大阪警察病院

SI-3 循環器一般成人病棟におけるクリティカルケア看護実践にむけた
看護管理者としての役割 ～ CNS・CN・専門職の活用～

角口亜希子 (財)日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院 看護部

SI-4 クリティカルな状況にある患者の多様なスキントラブルへの看護実践
～回復を遅延させないために～

富岡小百合 大阪府立中河内救命救急センター

SI-5 知識をクリティカルケア看護実践に活かすには

山岡 綾子 兵庫医科大学病院 ICU

教育講演Ⅰ 13:50～15:50

第2会場

座長：札幌市立大学 看護学部 中村 恵子

[家族看護ケア] 臨床実践に生かす家族ケアの技

渡辺 裕子 家族ケア研究所

教育講演Ⅱ 15:50～17:40

第1会場

座長：北里大学 看護学部臨床看護学 明神 哲也

[クリティカルケアと音楽運動療法]

野田 療 大阪芸術大学芸術学部 教養課程

ピアニスト 山本 京子

パネルディスカッション 15:50～17:40

第2会場

座長：山口大学大学院医学系研究科 山勢 博彰

[クリティカルケア看護各領域に共通する専門性について]

パネリスト

PD-1 集中ケア認定看護師の立場から

亀井 有子 市立岸和田市民病院

PD-2 クリティカルケア看護の各領域に共通する専門性

猿田 美雪 淀川キリスト教病院

PD-3 救急看護認定看護師の立場から

芝田 里花 日本赤十字社和歌山医療センター

会 長 講 演

日本のクリティカルケア看護学の未来 臨床家からの提言

松月 みどり

財団法人田附興風会医学研究所北野病院

日本クリティカルケア看護学会は今年で5回目を迎えます。アンブレラ学会として発足した設立集会で提言されたクリティカルケア看護の概念図を基礎に発展させて臨床家の立場から、私見を述べたいと思います。

クリティカルケア看護領域は、超急性期から慢性期・終末期までを対象としています。臨床現場のキーワードは、高齢・合併症のある大侵襲手術前後の重症ケア、血液浄化療法看護、移植再生医療、在宅呼吸器、酸素療法、初療、トリアージ、産科小児救急、SCU、重症新型インフルエンザの看護などがあります。そして脳低温療法。その現場は、わたしの体験ではありますが、医療チーム全員で、毎日真剣勝負のディスカッションを重ね、治療方針を決め、重症患者に残されたわずかな命の可能性への挑戦をしていました。毎日、患者の体の中で起こっていることを細胞レベルで理解し、死亡率は高かったですが、挑戦する気持ちは変わらず持ち続けた結果、ひとり、ふたりと患者が回復するに至りました。そして、ベッドサイドに泊まり込んで、体温を33℃に維持するにはどうすればいいのか装置の設定と体温の変化を克明に記録し、コントロールの仮説を構築したときは、充実感がありました。

臨床現場は、多くの学問領域の理論やエビデンスをどう組み合わせるかを患者をケアするからです。ヴィゴツキーは「文字はかつておこなわれた交通(交流)の場の廃物であり、作品(理論)は思想の廃墟であり、作品への深い同意によって復原する。」と述べており、深い同意によって実践に生きてこそ、理論ははじめて意味をもつといえます。そのためには理論と実践の交流は重要です。そして更に、関連看護分野との協働、それぞれの看護専門分野の専門性の深さの追求と同時に、医療安全、患者・家族の会などとの協働する社会的活動が、今後期待されていると考えます。健康な市民に理解されて、はじめて医療看護は意味を持ちます。しかし、それは国民と医療者の両方で努力して作り上げていくことが重要であります。市民に活かされ、理解されて、はじめて公共性や普遍性を持つと考えます。そのために、学会には、まだまだ多くの進化・発展の余地があり視野を広くもって活動することが重要であると考えます。

特別講演

人生90年 長寿日本

建築家 安藤 忠雄

東京大学特別荣誉教授

近代医療は、高度に専門化された結果、それぞれが分断化されてしまったように思います。一般的な一人の患者としての目から見てみれば、出来れば一人のお医者さんに全体を診て貰いたい。しかし実際は、おなかが痛いと内科へ、目の調子が悪ければ眼科へ、耳や鼻なら耳鼻科へとといったように、医者専門が分かれるために、患者はまず症状を見極めて、どの科に行くのが適当か自分で判断しなければなりません。

また、医療業務の内部でも、分業化が進んでいます。診察する人、検査する人、麻酔する人、薬を調合する人……。CTやMRIなどの先端の医療機器も、機器を操作する人と診る人が明確に分かれています。それらはもちろん専門化を促し、一つ一つの業務の精度を向上させていますが、同時に、物事を総合的に判断できる人材を減少させる危険性もはらんでいます。

建築においても同じことが言えます。住宅、オフィスビル、病院、老人施設等、ビルディングタイプを絞って専門に取り組む建築家が増えました。また、建設のプロセスにおいても、企画、設計、施工、監理と、それぞれの業務の分断化が進んでいるように思います。ここでも、システムの合理化や専門技術の発展というメリットの一方で、「建物をつくる」ということを総合的な見地から理解し、判断し、進めていくことの出来る能力が減少していくという問題が生じます。

建築は、その規模が大きくなればなるほど、トータルな視点を持って仕事に臨まなければならないと考えています。とりわけ、まちづくりの提案には、総合的なものの見方が不可欠です。

今日本の国は、揺れ動く世界情勢の中で、ますます影響力を失いつつあります。かつて「経済大国」と呼ばれた程の存在感は今では見る影もありません。しかし一方で、この国が未だに世界中の人々が憧れられている点があります。それは、世界一ともいわれる「長寿の国」であるということです。

なぜ日本は世界一の長寿国となったのでしょうか。ひとつにはもちろん、医療福祉制度の充実が挙げられますが、実は「長寿」は、まちづくりとも深い関係があります。自分達の好奇心を受け止めてくれる環境の中では人は元気に生きられます。毎日が楽しいと思える生活環境づくりが重要なのです。

かつての日本人の好奇心を刺激してきたのは、四季の変化に富んだ美しい自然の風景でした。近世までの日本人はその恵まれた環境の中で、きめ細やかな感性や自然を愛する心を育んできました。このような土壌から、江戸時代には、浮世絵や歌舞伎、文楽など大衆文化が発展し、庶民が生活文化を楽しむようになりました。この先人たちの遺伝子を色濃く引き継いでいるからこそ、日本は世界有数の長寿の国と成り得たのだと思います。

今後、この長寿社会を支えていくためには、人々の好奇心の受け皿となる「回遊できる」まちづくりが不可欠です。私自身、これまでの仕事の中で、建築という器に縛られることなく、まち全体を活用して、贅沢に楽しく生きる。そんな生活空間そのものを提案してきました。

医療も建築も、目指すべきところは同じ、「健康」と「長寿」だと思います。21世紀は生活文化の時代です。今後は利便性だけを追及した従来型のまちづくりよりも、好奇心を刺激し、くつろぎを提供する、歩いて楽しいまちづくりを考えていかなければなりません。

シンポジウムⅠ

知識をクリティカルケア看護
実践に活かすには

知識をクリティカルケア看護実践に活かすには

宇都宮明美

兵庫医科大学病院

臨床看護実践における知識は、文献などからの理論やエビデンス、看護師としての経験、事例からのリフレクション、倫理的感性などから、個々の看護師が積み上げていくものとする。臨床看護師の知識の集合体こそが、現場の看護の質向上へとつながると言っても過言ではない。臨床実践の知識の向上には、役割モデルとの経験を共有すること、既有知識と臨床経験の有機的結びつけが、その要素であると鬼塚は述べている。

私は専門看護師(本抄録の場合、急性・重症患者看護専門看護師：CNS)とは看護の質向上に対して、組織変革者として6つの役割(実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整)を実践しながら、現場の看護師をエンパワーする存在であると認識している。組織変革においてCNSは、チーム医療を推進するためのコーディネーターであり、病棟スタッフとのコラボレーターとしての積極的かわりが必須である。そのためには、日頃から臨床現場での複雑で絡み合った問題を抽出し、その要因がなにかを分析しつつ、問題解決のための介入を行うことが重要と考える。

看護実践のシステムの構築や変革を考えるならば、CNSの介入が個々のケースにとどまるのではなく、ケースマネジメントとしての視点が必要であると考える。

今回、開心術後患者の早期離床に対するケースマネジメントに着手した経緯の中で、CNSの知識、相談・調整行動の内容、そして行動しつつ考えるCNSのありようを示す。この中で、関係する専門職やグループダイナミクスの変容も明らかにしていきたい。

しかしながら、知識は、与えられるだけのものではない、自らが獲得するという能動的かつ積極的姿勢が必要である。そのためには、モチベーションの維持・向上を支える職場風土や看護師としての仕事意欲を支える支援的かわり、そしてCNSを人的資源として認知・活用していく同職異職種コミュニケーションの問題をクリアにしていくことも必要ではないかと考える。看護スタッフ・看護管理者・CNS達のコミュニケーションこそが、看護実践向上を促進する要因であるとする。

CNSは、スタッフや看護管理者との対話、経験を共有すること、実践を促進すること、看護管理者とともにモチベーションの維持に努力するとともに、集約した知識をケースマネジメントとして形に残すことが重要であるとする。

クリティカルケア看護師の知識獲得過程のあり方 急性・重症患者看護専門看護師の活動から

大江 理英
大阪警察病院

急性期医療では、集中治療の進歩や在院日数の短期化など、医療の質の向上と効率化が求められている。そのような中、クリティカルケア看護は、潜在的・顕在的に急性で生命危機状態にある、もしくは複雑な慢性疾患の憎悪により緊急状態にある患者とその家族に対する看護領域と考えられ、病期・病態を問わないためクリティカルケアユニットのみならず一般病棟など、場所を特定せずに展開される看護である。

私は地域の中核病院で急性・重症患者看護専門看護師（以下急性 CNS）として組織横断的な活動を展開している。活動の内容は、専門看護師の役割である実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究だが、それらを統合していくと、ケースマネジメントとシステムの構築となる。現在、呼吸チームを運営しているが、単なる教育啓蒙ではなく、目の前に在る患者様へ質の高いケアを提供できるように、各々のチームメンバーが各病棟内での呼吸ケアに関するリーダーとして機能できるようにしている。各チームメンバーが臨床看護実践の中でチーム活動から質の高い患者ケアに還元できる様にするには呼吸ケアに関する EBM やガイドラインを知るだけでは十分に浸透できず、専門看護師の機能であるコンサルテーションの機能を用いながらケア方法の教育や調整の必要性や「今行うことの意味」を問うなど専門知識の獲得とモチベーションの維持に努めている。

このような活動の一端をご紹介させていただき、知識をクリティカルケア看護の中で活かすために必要なことは何かを考えたい。

第5回日本クリティカルケア看護学会学術集会 企画委員・実行委員

企画委員 (50音順)

企画委員長：松月みどり	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
委員：安部 斉子	日本大学医学部附属板橋病院
杉元佐知子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
田中登紀子	元財団法人田附興風会医学研究所北野病院
中田 諭	社団法人日本看護協会看護研修学校
西尾 治美	日本大学医学部附属板橋病院
平尾 明美	青森県立保健大学大学院
道又 元裕	杏林大学医学部付属病院
宮野 壽子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
山本佳代子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
鎗野 りか	財団法人田附興風会医学研究所北野病院

実行委員 (50音順)

実行委員長：山本佳代子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
委員：入口真紀子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
木戸 宏美	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
塩田 浩子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
柴原三枝子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
嶋林 晴美	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
杉元佐知子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
高木 朱実	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
田中登紀子	元財団法人田附興風会医学研究所北野病院
堂後 鈴子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
峰 博子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
宮野 壽子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
鎗野 りか	財団法人田附興風会医学研究所北野病院

学術集会事務局

宮野 壽子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
鎗野 りか	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
山本佳代子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
中野 篤子	財団法人田附興風会医学研究所北野病院

協賛企業一覧(50音順)

寄付金

ナック商会株式会社
日本シャーウッド株式会社
フクダ電子近畿販売株式会社

出展企業

カーディナルヘルスジャパン228株式会社
株式会社高研
コンバテックジャパン株式会社
サラヤ株式会社
株式会社清水
株式会社神陵文庫
スリーエムヘルスケア株式会社
センチュリーメディカル株式会社
株式会社素敬
大研医器株式会社
タイコヘルスケアジャパン株式会社
ティーアンドケー株式会社
東洋羽毛関西販売株式会社
ニプロ株式会社
株式会社ニホン・ミック
パラマウントベッド株式会社
株式会社VIPグローバル
株式会社メディコン
株式会社メルシー
株式会社モレーンコーポレーション

広告掲載

味の素ファルマ株式会社
ウエルテック株式会社
大塚製薬株式会社
塩野義製薬株式会社
株式会社照林社
大研医器株式会社
株式会社ダスキンヘルスケア
田辺三菱製薬株式会社
東洋羽毛販売株式会社
株式会社中山書店
株式会社七彩 ワコールインテリア事業部
ニプロ株式会社
株式会社日本看護協会出版会
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
ヌーヴェルヒロカワ
ハクゾウメディカル株式会社
株式会社メディカ出版
ヤンセンファーマ株式会社

ランチョンセミナー

株式会社大塚製薬工場
スリーエムヘルスケア株式会社
タイコヘルスケアジャパン株式会社
パラマウントベッド株式会社
株式会社ホギメディカル
株式会社メディコン

次回開催案内

第6回日本クリティカルケア看護学会 学術集会

会 長：中村 恵子(札幌市立大学看護学部)

会 期：2010年7月16日(金)・17日(土)

開催地：北海道・札幌市

第5回日本クリティカルケア看護学会 学術集会
プログラム・抄録集

発 行：2009年6月

編 集：第5回日本クリティカルケア看護学会学術集会事務局
北野病院看護部内
〒530-8480 大阪市北区扇町2-4-20
TEL：06-6131-2933 FAX：06-6312-1314
E-mail：ccn-kango@kitano-hp.or.jp
URL：http://jaccn5.umin.jp/index.html

印 刷： 株式会社セカンド
http://www.secand.com/

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル 1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

Journal of Japan Academy of Critical Care Nursing

Vol. 5, No.1 June 2009